メープルレター（７２）

やっと春？

お彼岸の頃に降った大雪が溶けだすと、残雪を押しのけるようにして、赤いチューリップの芽が庭先一面に出てきました。その後も時々降る雪にお構いなく、葉も出始めてきました。生きとし生けるものは、春の到来を感じて我慢できずに行動開始をしているかのようです。まだ本格的な春ではなく、明るい陽射しをいっぱい浴びていても、マイナス５－６度まで気温が下がることもあり、やはりコートは離せません。北米の東海岸の春先は思わせぶりです。

２－３週間ほど前に、オールドモントリオールの一角で大火事がありました。朝方、窓越しにもくもくと黒煙が上がり、メラメラと赤い炎が空を覆い始めたのです。我が家から２ブロック先の古い一角の歴史建造物の建物が石造りの外壁を残して全焼してしまいました。窓枠も中も全て真っ黒な焼け跡になり、遺跡のように建物の外枠だけがぽつんと立っています。中には２０件ほどのアパートがあり、短期滞在者で一杯だったようです。「歴史的な建物の素敵な宿を格安のお値段で」とホームページに掲載され人気を誇っていたようです。この大火事で見知らぬ７名の旅人が命をおとしました。しかも不法建築アパートで、火災報知器もなく、非常階段も完備されていず、逃げ遅れた人がたくさん出たようです。大きな社会的問題となりました。この煽りを食って、オールドモントリオールにある観光客むけの１０００軒の短期滞在アパートは全て営業禁止になってしまいまた。今流行りの、古い建物のアパートに住んで美しい町の滞在を楽しむ企画が悪夢と化してしまったのです。誰かがネットで一時アパートを貸したとしても、取り締まりは難しいようですが、厳しく管理し合法化していくことになるようです。我が家の建物の火災報知器の鳴り過ぎの方がどうやら安心して眠れそうです。

こんな時にドリトル先生はどうしているかですか？ドリトル先生は、巷の火事は耳入らないようで、相変わらず水槽の魚の世話に没頭しております。どうしたら水槽の水が透明になるか、この三か月間苦闘を続け、ほぼ毎日バケツに水槽の水を入れては新しい水と入れ替えております。その間、魚が増えたり減ったりしております。最近は、銀色や縞柄のエンゼルフィッシュやグッピーに凝り、２－３種類の餌をあげ、色が美しくなるよう調整し、恋人を眺めるかの如くぼーっとエンゼルフィッシュやグッピーを眺めて暮らしております。エンゼルフィッシュやグッピーと水槽で泳いでいる気分なのかもしれません。考えて見ると、子供達は皆、水槽で魚

を育てています。どの子の水槽も水は完璧に透明なのに、ドリトル先生の水槽は、温度調節をしても、水を取り替えても水の濾過装置のポンプを幾つつけても透明にはならないのです。

「あーコンプレックス」

子供達の水槽を見る度にため息をついています。

３月下旬に１月遅れて天皇誕生日祝賀会が総領事館主催で行われました。マダム田中は他の２流派の人たちと一緒にいけばなを活けこみ会場を飾りました。各流派が違った雰囲気を出すいけばなはなかなか味があり、お客様に喜ばれていました。イタリア滞在の長かったオペラ歌手の歌う君が代は会場を圧倒しました。愛国心がある無しにかかわらず、君が代は、心に響きます。ドリトル先生は、お茶の会の着物姿の女性達に囲まれ幸せそうでした。君が代の歌姫はお茶の会のメンバーでもあり、会長のドリトル先生と話しが弾んでいました。歌姫は、神田生まれのちゃきちゃきの江戸っ子（芸大を除き、小さい頃から白百合で勉強をしていたとのことです）で気風が良く、話し出したべらんめえです。総領事は渋谷生まれの自称「city boy」であり、会場は何やら東京の風情が強かったように思います。

「和子お姉ちゃま」

と呼ばれ、マダム田中は、いつの間にやら、家族の如く話の合う歌姫の友になってしまいました。歌姫は多才で、筆を持たされば達筆、和歌もたしなみ、お茶も頑張る。。。歌も歌う。。その上、空手は黒帯。世の中には稀な人です。あるパーティーで出会った時に

「ちょっと空手、気合入れてやってみて」

「あいよ、やー」

と見せた空手の構えは君が代の歌姫とはやや違い、気迫がありました。

このレセプションの会場で３年ぶりに補習校（外国にある日本の中高の教育をする学校）の歴代の校長先生達に出会い、話に花が咲きました。このコロナ禍の３年間にお互いにすっかり年をとり、白髪が増えたようですが、歴代（二人ですが）の校長先生方が少しも変わらず、若いのには驚きました。

「田中さん、僕、もう８１歳よ。」

東京理科大学出身でこちらの研究所に勤めながら長い間校長先生を務めた方はニコニコと変わらぬ笑顔です。

「嘘―。若く見える。」

「テニスもマラソンもやめて、毎日水泳を１０００メートル。」

「素晴らしい。」

ユーモアの絶えない落語好きの方で、子供達に好かれ、毎年の学芸会は落語劇を子供達にさせていました。あれから、軽く２０年以上はたったしまったようです。彼の後の、もう一人の美形のスポーツマンの校長先生は、

「２年前に本職も補習校の校長先生も全て退職して、悠々自適」

少し白髪が増えた以外は、相変らずシャープな体型を保っています。

「相変わらず、スマートですね。」

「週 3 回千メートル泳ぐくらいかなあ？」

「とても素敵な絵を描かれていらっしゃるのですね。画伯の道まっしぐら？」

ある日突然地元の日系コミュニテイー誌に載せられた彼の絵が実に色彩鮮やかで素晴らしかったのです。

『前からしたかったのよ、お絵かき。２７枚くらい描いたかな。』

晩年を健康にゆったりと過ごす二人の校長先生との歓談は、子供達と過ごした古き良き時代を彷彿とさせるものでした。来年もまた、こうして会うを約束しながら、再会を喜んだ夕べのひと時でした。